◇果樹類の殖やし方　取り木◇

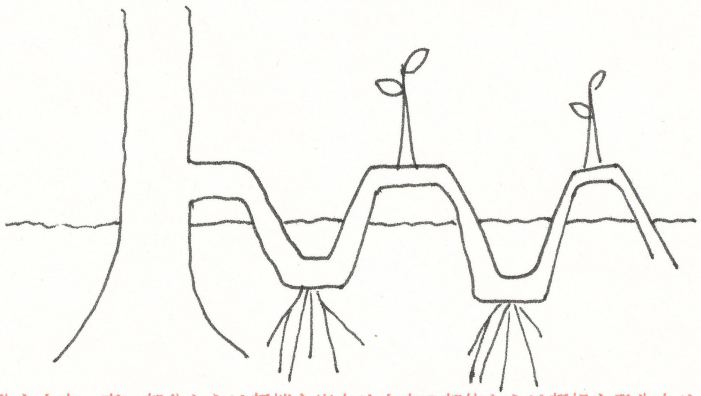
取り木は親株を枝から離さず土中、あるいは空中で不定根を発生させた後切り離し、独立した個体に養成する栄養繁殖法の一つである。

不定根を形成させる事では挿し木と同様であるが、つねに養水分の供給を受けながら形成する点が異なる。

取り木の方法には伏せ取り木、盛り土法、高取り法などがある。発根させる部分は、発根を促進するため環状剥皮、そぎ上げのほか、傷つけ処理や発根剤の処理が行われる。

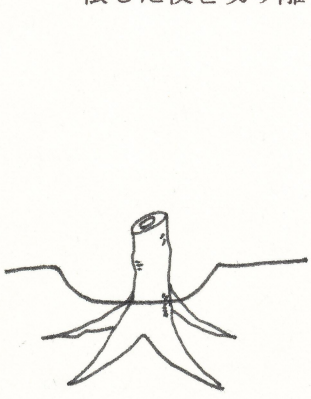
発根部の外的要因のうち温度は高取り法の場合 20~25℃が適温とされているが、これより高めでも良いこともある。水分条件は発根部が乾燥しない程度の湿り気が必要とされ、同時に通気性も必要とされる。

1) 伏せ取り木:母株から発生した 1~2 年生枝を誘引して土に埋め、発根させた後に切り離す方法である。

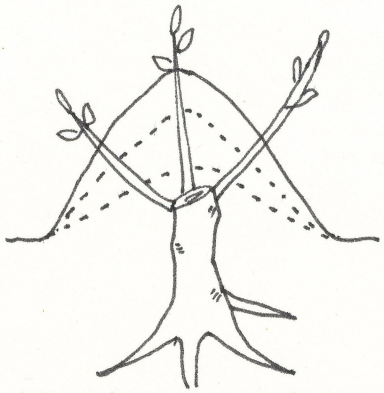


長い枝を数回起伏させ、低い部分を土中、高い部分からは新梢を出させ土中の部位からは新根を発生させる

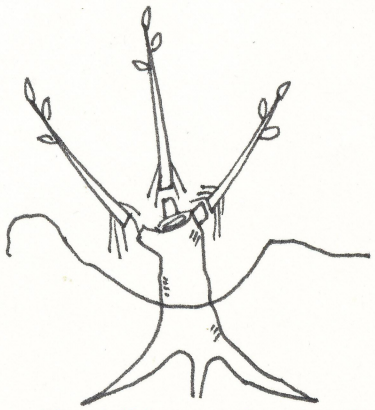
2) 盛り土法　:母株を地ぎわで切断して多数の枝を発生させ、これに盛り土しておき発根した枝を切り離す方法である。



地上 5cm で切り詰める.

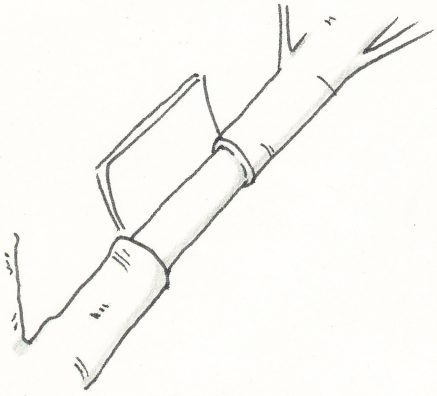


新梢の生育に従って 2~3 回覆土する.



発根した枝を 2~3cm 残して切り取る.

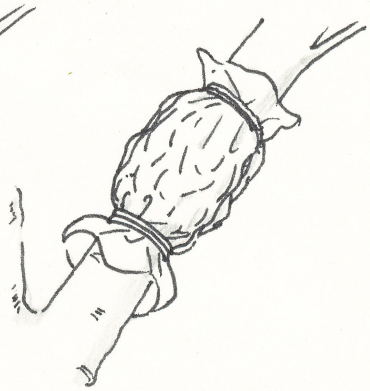
3) 高取り法　:発根させた枝の部分に傷つけ、処理を行いその部分を湿ったミズゴケ・粘土などで包み、その上をビニルで被うなどして発根させ枝を切り離す方法である。



2年生以上の枝で直径1~2cmのもを用い直径の2,3倍の幅で環状剥皮を行う。



環状剥皮した部分をミズゴケで被いビニルで包んで両端をしばる。



1~2ヶ月後に発根の状況をみながら切断、鉢上げする。

◇高取り木を行う上での注意点・その後の管理◇

- 取り木する部位は、邪魔な枝の剪定を兼ねて行い、長い枝の場合は2カ所に取り木ができる。細い枝に取り木した場合は枝が折れないように添え木をする必要がある。
- 環状剥皮は適正な幅で行うこと。幅が広ければ枝が枯れる場合があり、狭ければ剥皮部分が癒合し発根しなくなる。
- ミズゴケは一日以上水に浸したものを用いる。
- ビニルで包むときは、ある程度絞ったミズゴケをはみ出ないようにビニルできつくしばる。(ミズゴケがはみ出ているとそこから水分が抜け乾燥する場合がある)
- 取り木部分を切断して鉢上げするときは、根と茎葉のバランスをとらなければ枯れてしまうので、茎葉を剪定する。

今回はミズゴケを使っての取り木だが、土を用いる方法もあるので二通りで試行してもいいかもしれない。また取り木は果樹だけでなく、花木や庭木などにも利用できる。

高取り木作業に必要な道具

剪定ハサミ・ミズゴケ(一日以上水に浸したもの)・ビニル・麻紐・巻き尺・ものさし・脚立